



セネガル国月報

2015年9月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 6日、当地民間航空会社セネガル・エアーの緊急医療搬送機(ワガドゥグ発ダカール行)と赤道ギニアの航空会社 CEIBA 社の旅客機 CEL071 便(ダカール発コトヌ行)がダカールから 555 キロの地点で衝突した。セネガル・エアー機の乗員及び乗客 7 名(セネガル人医療スタッフ 3 名を含む)は全員死亡したと見られる。

外政

- 7日から9日にかけて、サル大統領はポルトガルを訪問した。
- 18日から20日にかけて、サル大統領は、17日にブルキナファソで発生したクーデターを受け、ECOWAS 議長として同国を訪問した。
- 28日、サル大統領は第70回国連総会において一般討論演説を行った。

経済

- ブレーズ・ジャーニュ新空港の運営管理業務の委託先である Fraport Senegal の株式の 51% を保持する独 Fraport 社が同事業からの撤退を決定したことから、仏 Aéroport de Paris (パリ空港公団) が参入を検討している。
- 29日、西アフリカ開発銀行は、現在建設計画が遅延しているセンドウ火力発電所につき、費用の一部に相当する約 257 億 Fcfa の貸し付け条件の再検討を提案した。

内政

1 カザマンス紛争

- 9日、ジガンシオール州南部のパヨット近郊で、薪を採取していた若者 21 名が武装集団に拉致された上暴行された。その後、犯人グループは逃走した(10日 Sud Quotidien)。
- 14日、セジュ州セジュ県ニャンガ市バンタニエル村(ギニアビサウ国境地帯)からギニアビサウ側シンチューグドゥ村に向かっていた住民 7 名が、6 名からなる武装集団に暴行された上拉致され、10時から18時にかけて拘束された。その後、武装集団は被害者らの金品を強奪し逃走した(15日 Observateur)。

2 ラディソン・ブル・ホテルに対する爆破予告に関する続報

- 治安当局は、8月4日に発生したラディソン・ブル・ホテルに対する虚偽の爆破予告の容疑者として、ギニア大統領選挙に立候補中のマドゥ・セルー・ダーレン・ジャロ野党 UFDG 党首の近親者である在仏ギニア人に対する捜査が行われている旨明らかにした。同ホテルには翌日からコンデ・ギニア大統領が宿泊する予定であった(10月1日 Seneweb)。

- 28日、ラディソン・ブル・ホテルに対する爆破予告に関与した疑いでセネガル人の男女各1名が逮捕された(10月1日 Walfadjri)。

3 その他

- 6日、当地民間航空会社セネガル・エアーの緊急医療搬送機(ワガドゥグ発ダカール行)と赤道ギニアの航空会社CEIBA社の旅客機CEL071便(ダカール発コトヌ行)がダカールから555キロの地点で衝突し、その後セネガル・エアー機はセネガル沖西方111キロ地点でレーダーから消失した。同機の乗員及び乗客7名(仏人患者1名、アルジェリア人1名及びコンゴ人2名からなる乗員3名ならびに当地医療機関SOS Mediciens所属のセネガル人医療スタッフ3名)は全員死亡したと見られる(6日APS, 7日 Seneweb)。
- 23日、最高裁判所は、昨年7月24日にチャム国民教育相が発出した法令(2014年度の教員養成校入学試験の過程で不正が行われたとして、各州の教員養成校に入学後5か月が経過していた生徒690名の入学を取り消したものを)を破棄する判決を下した(24-27日 Sud Quotidien)。

外政

1 ヴィエイラ・ブラジル対外関係相のセネガル訪問

- 2日、セネガルを訪問中のヴィエイラ・ブラジル対外関係大臣は、サル大統領と会談を行った(3日 Soleil)。
- 2日、ヴィエイラ・ブラジル対外関係大臣は、ンジャイ外相と会談を行った。ンジャイ外相によると、現在両国間で農業、保健、職業訓練、ダカールーブラジリア間の直行航空便就航等に関する複数の案件について協議が行われている(3日 Soleil)。
- 2日、ダカールにおいて、セネガルとブラジルとの経済関係に関するフォーラムが開催された。同フォーラムのマージンにおいて、国家養殖局(ANA)はブラジル企業との間にセネガル北部でのエビ養殖にかかる500億 Fcfaの融資契約を締結した(3日 Quotidien, Sud Quotidien)。

2 トレンティーノ・アラウジョ・カーボヴェルデ対外関係相のセネガル訪問

- 3日、セネガルを訪問中のトレンティーノ・カーボヴェルデ対外関係相はンジャイ外相と会談を行い、近くダカーループライア間に直行船舶便を就航させる計画につき明らかにした。現在のダカーループライア間船舶便は欧州経由で1か月を要するが、直行便の就航により所要時間は23時間に短縮する(4日, 5日 Soleil)。
- 4日、トレンティーノ・アラウジョ対外関係相はサル大統領と会談を行い、ダカーループライア間船舶便の就航等について協議を行った(5・6日 Soleil)。
- 4日、トレンティーノ・アラウジョ対外関係相及びンジャイ外相は、①職業訓練、②サヘル地域におけるイスラム過激主義に対する軍事協力、③人及びモノの入国・通関審査ならびに④航空運輸にかかる4協定に署名を行った。また、両大臣はポルトガル語諸国共同体(CPLP)各国に対し、ギニアビサウ情勢の安定化に

協力するよう呼びかけた(5・6日 Soleil)。

3 サル大統領のポルトガル訪問

- 9日, 7日からポルトガルを訪問中のサル大統領はカヴァコ・シルヴァ大統領と会談を行った。その後, 両大統領は共同記者会見を開催し, 両国の政治・経済関係を強化する意向を述べるとともに, 移民の急増及びギニアビサウ情勢に関する両国の利害の一致を強調した(10日 Soleil)。
- 9日, サル大統領及びカヴァコ・シルヴァ大統領の出席のもと, インフラ分野の二国間協力に関する協議が行われ, モンテイロ・ポルトガル・インフラ・交通・通信閣外大臣とカン・セネガル・インフラ・陸上運輸・交通整備大臣との間でセネガルにおける①路面電車, ②地方間高速鉄道, ③国家鉄道網の整備に関する協力協定に署名が行われた(10日 Soleil)。
- 9日, サル大統領はムラルジ・ポルトガル語諸国共同体(CPLP)事務総長及びCPLP諸国の大使らと, 主にギニアビサウ情勢に関して会談を行った(10日 Soleil)。
- 9日, サル大統領は「セネガル新興計画(PSE):セネガルにおけるビジネス環境と投資機会」をテーマに開催された経済フォーラムに出席した。同フォーラムには約340名の現地ビジネス関係者らが出席した。また, 同フォーラムのマージンでセネガル電力公社(SENLELEC)とポルトガル電力公社, セネガル商工会議所連盟とポルトガル国際商工会議所, セネガル経営者評議会とポルトガル起業家組合, Africa Conception社と葡自動車工業 Auto Ribeiro社の間にそれぞれパートナーシップ協定が締結された(10日 Soleil)。

4 ECOWAS 臨時首脳会合

- 12日, ダカールにおいて ECOWAS 臨時首脳会合が開催され, サル大統領ほか7か国の首脳級を含む各加盟国代表が出席した。同会合においては, 主にギニアビサウ情勢及び10月に大統領選挙が実施されるブルキナファソ, コートジボワール, ギニア情勢について協議が行われた。また, サル大統領, コンデ・ギニア大統領及びオバサンジョ元ナイジェリア大統領からなる ECOWAS ギニアビサウ調停グループを設立することが決定された(14日 Soleil)。

5 ブルキナファソ政変に対する反応

- 18日から20日にかけて, サル大統領は17日にブルキナファソで発生したクーデターを受け, ECOWAS 議長としてワガドゥグを訪問した。同大統領はヤイ・ベナン大統領らとともにディエンデレ将軍, 各政党関係者, 市民社会関係者らと協議を行い, 13か条からなる合意協定案を作成した(19・20日, 21日 Soleil)。
- 22日, サル大統領は, アブジャ(ナイジェリア)で開催されたブルキナファソ情勢について協議するための ECOWAS 臨時首脳会合に出席した(23日 Soleil)。

6 第70回国連総会

- 26日, 国連総会出席のためにニューヨークを訪問中のサル大統領は, 持続可能な開発サミットに出席し, グリーン気候基金(GCF)への支援の重要性を強調するとともに, 不正資金や汚職との闘い及び長期的な

開発に不可欠なインフラ整備への支援を訴える内容の演説を行った(28日大統領府発表)。

- 27日, サル大統領は, 同日に予定されていた現地在住セネガル人らとの会合への出席を, 会場前にカリム・ウッド元大臣の解放を求める野党支持者らが集合していたため中止した(28日 Seneweb)。
- 28日, サル大統領は一般討論演説を行った(29日 Soleil)。
- 28日, サル大統領は潘基文国連事務総長, ボンゴ・ガボン大統領, コレア・エクアドル大統領, エルシーシ・エジプト大統領, ロウハニ・イラン大統領, シヤリフ・パキスタン首相, アデシナ・アフリカ開発銀行総裁, ダ・シルヴァ FAO 事務局長らとそれぞれ意見交換を行った(29日 Soleil)。

7 その他

- 2日, 国連人権理事会恣意的な拘束に関するワーキンググループ及びセネガル政府側弁護団は, パリで会談を行った。翌3日, 同弁護団は会見を行い, 4月に同グループが発表したカリム・ウッド元大臣の拘束は不当なものであるとの見解に対し, 右見解は「裏工作の産物」である上, 一切の法的拘束力がない旨主張した(4日 Soleil)。
- 7日, ハブレ元チャド大統領裁判が再開されたが, 同元大統領はカム特別法廷(CAE)首席判事及び裁判所書記官らに対し, CAEの正当性を否定し, 公判を妨害する発言を繰り返した(8日 APS, 9日 Quotidien)。
- 17日, セネガルを訪問中のオバサンジョ元ナイジェリア大統領は, ギニアビサウ政治情勢についてサル大統領と協議を行った(18日 Soleil)。
- 米危機対応特別目的海兵空地任務部隊(SP-MAGTF CR)は, 5日からセネガル軍と危機管理及び人道支援にかかる訓練を合同で実施している。SP-MAGTF CRからは海兵約200名, オスプレイ2機, 輸送船1隻が動員されている。また, セネガル政府は, SP-MAGTF CRが西アフリカで作戦を行う際に同国内の基地を拠点とすることを許可した(27日 APS, 28日 Seneweb)。

経済

1 マクロ経済

- IMF 対セネガル経済政策支援インストルメント(ISPE)(2015-17年)の第1回レビューのためにセネガルを訪問中のアリ・マンスール IMF 同ミッション代表によれば, 本年前半のマクロ経済状況はおおむね満足できるものである。また, 2015年の経済成長率は5%から5.5%, 2016年は6%を達成する見通し(17日 Soleil)。

2 エネルギー

- 10日, セネガルを訪問中のリヴキン米國務次官補は, 「パワー・アフリカ計画」を通じてセネガルで実施中の2計画により, セネガルのエネルギー供給の40%増を目指す旨述べた。また, 同國務次官補は, 世銀ダ

カール事務所に「パワー・アフリカ計画」担当地域アドバイザーのポストを創設した旨発表した(11日 APS)。

- 29日、西アフリカ開発銀行は、現在建設計画が遅延しているセンドゥ火力発電所につき、費用の一部に相当する約257億 Fcfaの貸し付け条件の再検討を提案した(1日 Quotidien)。

3 運輸

- ブレーズ・ジャーニュー新空港の運営管理業務の委託先である Fraport Senegal の株式の51%を保持する独 Fraport 社が同事業からの撤退を決定したことから、仏 Aéroport de Paris(パリ空港公団)が参入を検討している(1日 Observateur)。
- 仏物流業 Necotrans 社の子会社であるセネガル貨物サービス社(TVS)関係者によると、同社がダカール自治港における貨物コンテナ取扱に参入した2013年11月以来、同港の1日辺りの貨物流通量は4,000トンから17,000トンに増加した(21日 Soleil)。

4 鉱山

- 9日、鉱山部門の税制能力強化にかかる西アフリカ諸国会合がダカールで開会され、マンガラ経済・財政大臣付予算担当大臣がフォタオング NEPAD プログラム調整部長とともに共同議長として出席した。同会合には、各国の財務省及び鉱山省の職員らが参加している(10日 Temoin Quotidien)。
- 8日、サボダラ・ゴールド・オペレーションズ社は、政府との協力の下にサボダラ金鉱付近の村落の整備及び移転住民支援を目的とした「ニヤカフィリ計画」を実施する旨発表した(9日 Soleil)。

5 その他

- 14日、セネガル水道公社(SONES)本社において、ファイ水力・衛生大臣とアフアイラル・モロッコ・エネルギー・鉱山・水・環境大臣付水担当大臣は海水淡水化に関する協力協定に署名を行った(15日 Soleil)。
- 14日、バルデ環境相は、政府が2010年から35年までの温室効果ガス削減目標を0.5%~0.9%と定めた旨発表した(15日 Soleil)。
- 18日、政府は飲酒が一部の犯罪行為の原因となっているとして、容量が500ミリリットル以下かつ度数が18度以上のアルコール飲料の製造、輸入及び販売を国内において禁止する法令を発出した。これを受け、チェス県では一部の酒類取り扱い工場が一時閉鎖されている(19・20日 Observateur)。

(注)「セネガル月報」は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)